

ReCAAP 事務局長の訪問について

当協会は11月2日（木）、アジア海賊対策地域協力協定（Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships in Asia: ReCAAP）Krishnaswamy Natarajan 事務局長の訪問を受け、当協会からは土屋副会長、大森常務理事、平尾海務部長が出席し、意見交換を行いました。

インド沿岸警備隊長官経験者でもある Natarajan 事務局長は、ReCAAP の創設は、日本政府の強力な後押しにより設立され、以後、21 カ国の海上保安機関が連携するまでになったと経緯を説明しました。

また、昨今は窃盗事案が増加しており、対策の実施と被害に遭った場合は迅速な報告が類似事案の発生抑止になると対応の重要性を強調しました。

土屋副会長は、マラッカシンガポール海峡で増加する窃盗等事案について、見張りを含めた対策が重要であると理解するが、船舶交通が輻輳する航路等での事案発生は、航行安全が損なわれかねないと憂慮しているとしたうえで、ReCAAP から毎週提供される情報および定期的な分析レポートは会員にとって重要であるとの認識を示しました。

Natarajan 事務局長からは、窃盗事案は基本的な侵入対策で防げることが多いとして、今後も航行船舶の対策の有効な実施に必要性を訴え、今回は、日本商船の対策等を知ることが出来、有益な訪問であったと述べました。

（日本船主協会 海務部）



ReCAAP Natarajan 事務局長と土屋副会長